

自殺予防教育プログラム実施報告書

学校名	北海道栗山高等学校
-----	-----------

(1) 教職員間の共通理解を図る研修等の実施

研修等の実施日	令和6年2月19日(月)	研修参加予定人数	12人
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・相談しやすい人間関係の構築について ・生徒が相談しやすくする方法の身に付け方について ・相談しやすい会話の仕方について ・自殺の実際とその心理について ・こころの「黄色信号」心の危機のサインを知り、心身が不調なときの対応について 		
研修に参加した教職員の声	<ul style="list-style-type: none"> ・「黄色信号」がでているときは、こころと身体の休息が何よりも必要である事がわかった。 ・相談されたときの対応として、「受け止めること」と「誠実な態度」が重要であることがわかった。 		
研修等で使用した資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺予防プログラムの実施に向けて(教職員向け資料) 		

(2) 「自殺予防教育プログラム」の実施

	実施状況(主な実施内容、アセスメントツール等による生徒の変容、生徒の感想等)
A 援助 希 求 的 態 度 の 育 成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実践の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒に対して、4月と11月の年2回、教育相談週間を実施し、全ての教職員が生徒と面談を行った。生徒の日常の不安や悩み等を把握し、全教職員で情報共有を図った。その結果、教職員の傾聴能力が高まり、生徒理解が深まった。 ・子ども理解支援ツール「ほっと」を実施し、生徒の傾向を知るツールとして活用した。 ・長期休業前後で実施する心と身体のチェックリストを活用し、生徒の心の変容を把握した。 ○ 生徒の変容を促す工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・面談を実施する前に、「子ども理解支援ツールほっと」を実施し、個々のデータを面談に活用した。 ・複数の先生と話す機会を作るなど、各学年で工夫した。 ○ 生徒の変容 <ul style="list-style-type: none"> ・教員との関係が近くなり、生徒の自己肯定感が高まりつつある。更に、生徒会活動の活性化により多くの生徒が学校行事に積極的に参加するようになった。また、自分の意見をしっかりと述べる事が出来る生徒も増加しており、面談の効果が現れている。 ○ 生徒の感想 <ul style="list-style-type: none"> ・「じっくり話を聞いてもらえてよかった。」 ・「今回面談してもらって、先生の意外な面を知ることができた。」

B 早期の問題認識（心の健康）

- 実践の概要
 - ・「コミュニケーションの達人になろう」というテーマで、スクールカウンセラー講話を実施した。講話では、ゲートキーパーや自分のリソースについてグループワークを実施し、お互いの意見を交流した。
 - ・寮生に対して、スクールカウンセラーによる全員面談を実施した。



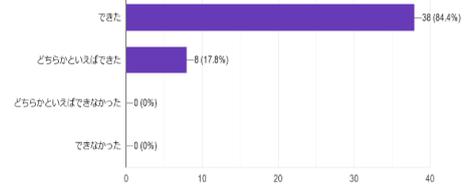
- 生徒の変容を促す工夫
 - ・講話形式ではなく、グループワークを取り入れて、生徒が考える機会を作った。また、スクールカウンセラーが一人一人のワークシートにコメントを返してくれたことにより、つながりができた。
 - ・寮生に対する面談は、休日の部活動の合間に実施することにより、外部監督・コーチとも情報共有することができ、効果的に生徒に対応することができた。
- 生徒の変容
 - ・相手の話しを聞く力が付き、良好な人間関係を構築するスキルが向上した。
 - ・生徒がカウンセリングを受けやすい雰囲気を作ることができた。
- 生徒の感想
 - ・「相談するときの『3人試す』の法則が面白かった。自分も3人試してみようと思う。」
 - ・「大事な人を助けたいと思った時に、自分ができることがわかってよかった。その時がきたら、使ってみようと思う。」

C ストレス対処能力の育成

- 実践の概要
 - ・1年生を対象に、保健講話を実施し、性の多様性やデートDVについて学ぶ中で、自他ともに認め合う人間関係の育成をめざした。また、職業ガイダンス等、進路教育を充実し、進路に対する経験値を増やすよう努めた。
- 生徒の変容を促す工夫
 - ・保健講話は町の保健師に講師を依頼し、身近な話題をとりいれてもらうなど内容を工夫した。また「保健師」という職業にも触れてもらった。
 - ・職業ガイダンスは、地元の様々な企業に参加していただき、仕事や働くことについて、直接話を聞くことが出来るようにした。
- 生徒の変容
 - ・マイノリティについて理解し、集団としてお互いを思いやる気持ちが高まった。
 - ・講話後のアンケート結果から、生徒の多様性への認識がさらに深まった。
- 生徒の感想
 - ・「今回の講話の内容を聞いてみて、個人個人の考えを尊重し、もっと自分を隠さなくてもいいような社会になったらいいなと思った。」
 - ・「デートDVは自分がされたら嫌だし、相手も嫌な思いをするのでしないようにしていきたいです。もしされたら家族や友達に相談したいと思いました。」
 - ・「自分も結構感情的になりやすい。行動には出さないけど言葉には出やすいので、いくら仲がいい友達であろうと言葉遣いには気をつけようと思った。」

<保健講話事後アンケートより>

2多様な性（性的マイノリティ）についてどう思い...とで、自分自身について考えることができた。
45件の回答



2多様な性（性的マイノリティ）についてどう思...分以外の人の考え方を尊重することができそう。
45件の回答

